

カリキュラム区分	高品質ワイン製造	新ブランド化	国際競争力強化
授業科目名	ワイン評価学		
担当教員名	ジル・ド・ルベル（ボルドー大学教授） <u>佐藤 充克（山梨大学客員教授）</u> 奥田 徹（山梨大学教授） 久本 雅嗣（山梨大学准教授） 岸本 宗和（山梨大学准教授） 齊藤 史恵（山梨大学助教）		
開講学期	<input type="checkbox"/> 前期	・ <input type="checkbox"/> 後期	の別 授業時間数 前・後期各15時間計30時間
授業の目的	海外で実施されている先端的な官能評価方法について学び、ヒトの香りに対する閾値を理解する。また、ヒトに対する評価、即ちベネフィットについては、アルコール飲料を一例にアルコールそのものの適量飲酒の効果、ポリフェノールのラジカル消去活性、リスベラトロールなどの機能性生理活性物質の効能など、一般人にも分かり易く説明できるレベルに到達することを目標に、最新の知見を修得する。		
授業の概要	ワインの評価の内、官能評価方法について基礎的な事項を学ぶ。また、ヒトに対する評価、即ちベネフィットについては、アルコールそのものの適量飲酒の効果、赤ワイン・ポリフェノールのラジカル消去活性、ワインの成分とラジカル消去活性、リスベラトロールの効能など、最新の知識を含め理解を深めさせる。		
授業の到達目標	アルコールの効能について、愛好者に分かりやすく説明できるようにする。そのために、アルコールの基本的な効能、ポリフェノールとラジカル消去活性の関係、生活習慣病とLDL-コレステロールの関係、ポリフェノールの役割などを基礎から理解し、ワイン愛好者に分かり易く説明できるレベルまで理解する。 官能評価について、各人の香りに対する閾値を理解する。		
授業の方法	数名の教員によるオムニバス形式		
講義内容	第1回：ボルドーのワインについて 第2回：地理的な位置 第3回：AOCのブドウ畑最大の面積 第4回：ボルドーワインの生産とビジネス 第5回：ボルドーワインの特殊性 第6回：土壌は多岐にわたる 第7回： <u>アルコールの過剰摂取の害について（佐藤・実務家教員1時間）</u> 第8回： <u>適量飲酒の効用について（佐藤・実務家教員1時間）</u> 第9回： <u>フレンチパラドックスと赤ワイン（佐藤・実務家教員1時間）</u> 第10回： <u>赤ワインポリフェノールのLDL酸化阻害効果と動脈硬化について（佐藤・実務家教員1時間）</u> 第11回： <u>赤ワインの成分とラジカル捕捉活性について（佐藤・実務家教員1時間）</u>		

	<p>第12回：赤ワインの熟成とポリフェノールの重合による効能の変化について (佐藤・実務家教員1時間)</p> <p>第13回：リスベラトロールの効果について (佐藤・実務家教員1時間)</p> <p>第14回：食品に含まれる機能性ペプチドについて (佐藤・実務家教員1時間)</p> <p>第15回：官能評価の基礎知識</p> <p>第16回：官能評価の特徴</p> <p>第17回：甘味、酸味、苦味の成分と官能評価</p> <p>第18回：渋み、収斂味の成分と官能評価</p> <p>第19回：食品の香りの成分と官能評価</p> <p>第20回：食品のオフフレーバーについて</p> <p>第21回：食品の特徴的果実香の成分と官能評価</p> <p>第22回：アッサンブラージュのワイン</p> <p>第23回：赤ワイン用品種</p> <p>第24回：ワインのオフフレーバー (第29回までグループディスカッション による双方向計6時間)</p> <p>第30回：質疑応答 (双方向1時間)</p>
成績評価の方法評価基準	<p>発表内容 (30%)：テーマを決めて発表会を行い、基礎理論を理解しているか、事例解析を有効に活用しているかで評価する。</p> <p>小テスト/レポート (70%)：受容事項の基本的理解度を評価する。</p>
教科書	<p>大庭理一郎、五十嵐喜治、津久井亜紀生、共著：佐藤充克，アントシアニン - 食品の色と健康-，建帛社，ISBN:4</p>
参考図書	<p>編著：西野輔翼、共著：佐藤充克ら、がん抑制の食品事典、法研、ISBN:4879544604</p> <p>監修：吉川敏一；共著：佐藤充克ら、老化、シーエムシー出版、ISBN:4882318954</p> <p>編著：横越英彦、共著：佐藤充克ら、脳機能と栄養、幸書房、ISBN:4782102429</p> <p>辻料理師専門学校&山田健監修；佐藤充克ら共著、ワインを愉しむ基本大図鑑、ISBN:978-4-06-213694-5</p>
その他	<p>[必要知識・準備]</p> <p>生化学、微生物学、ラジカルに関する無機化学など基本的な科学知識が必要である。学部で基本的な学習をしていれば、レベルとしては充分である。最近のメタボリックシンドロームや生活習慣病など医学的知識については、関連する書籍を読んでおくことを推奨する。</p>